

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4270202825		
法人名	医療法人社団真友会 藤井医院		
事業所名	医療法人社団真友会 藤井医院 グループホームみどり		
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市中通町17番地22 (電話) 0956-37-2002		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年12月18日	評価確定日	平成20年4月15日

【情報提供票より】(平成19年11月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15人, 非常勤 0人, 常勤換算	15人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または一日(円)		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 90 歳	最低 69 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団真友会 藤井医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山の中腹の静かな住宅街にある“みどり”は3階建てで1階は有料老人ホーム、3階は通所介護、2階は2ユニットのグループホームである。高台のため眺めも良く小鳥のさえずりも聞こえ、日当たりの良い共有部分には入居者とディサービスの利用者が一緒に作った作品が飾られ、季節の行事を楽しみに待っている様子が窺える。一般のお風呂の利用が難しい方は機械浴を利用したり、法人内の理学療法士や歯科衛生士等のサービスも受けられ、その方にとって必要な健康管理がなされている。入居者の家族で見守りが必要な一人暮らしの妻のために、台風時には居室を提供したり、一緒に外食したり、利用料を自宅まで受け取りに行き安否確認をし、遠方の家族に入居者の生活だけでなく家族の様子も連絡し娘さんから感謝されている。地域密着型サービスの第一歩は入居者の家族からと、入居者も家族も大切に考えている暖かいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回市町村との関わりが今後の取り組み課題であがっていたが、今回、管理者病気のため急遽交代を余儀なくされた時も市に相談して状況を理解していただき、関係機関との連絡、助言等があり無事管理者の交代が出来た。これからも、運営面だけではなくケアの質の相談もしていきたいと思っている。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自分達の日々のケアの振り返りになる事を伝え、職員に自己評価票を記入して貰い管理者がまとめ、前回の評価結果を基に改善計画書を作成し取り組んでいる。評価目的や活用についての理解の程度に差があると管理者は感じており、外部評価の意義とねらいについて施設長、管理者、職員で話し合い同じ思いで取り組んでいきたいと考えている。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議参加者について町内会長から地域の方の推薦を頂き開催し、ホームの活動報告や意見に基づいた実施状況の報告、活発な意見や質問も頂いている。議題についての要望や資料を事前に配布したり、町内会議の時にお手渡ししている。次回の開催日を早めに連絡し、積極的に参加していただく取り組みをしている。アドバイスにより「夏祭り」を回覧板と掲示板で参加を呼びかけ多くの人の参加があった。会議の時に出された意見や質問は今後の運営に反映させたいと考えている。</p>
	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月の定期報告として“みどり新聞”で、行事や暮らしぶり、職員の異動について報告し、遠方の方には行事の時の写真や手紙を差し上げたり、入居者の家族の様子も定期的にお知らせしたり、ご意見等を率直に言って頂けるよう、ご意見箱を設置し、面会時にお聞きしたり言い易い雰囲気作りを努めている。ご意見を頂いた時は施設全体の会議の中で検討し、関連施設のご意見等も職員で共有し自分自身の事としてケアに反映させるようにしている。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>学校の運動会や文化祭にご招待頂き見学に行ったり、地域のカラオケ大会に入居者が参加したり、夏祭りに地域の方の参加も多く大変な賑わいをみせた。小・中学校の体験学習の受け入れ、ボランティアの方々にホームを訪れて貰う取り組みが日々行われている。自治会に加入し地域の清掃は職員が参加しているが、今後は利用者も一緒に参加出来るように取り組んでいきたいと考えている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「緑豊かな環境・恵まれた景観・心地よい居住空間・ひとりひとりの声に耳を傾け、その人らしさを大切に生活を送れるよう努めます」という理念は開設当初、施設長、ケアマネジャーを始め皆で考えて作った。“ひとりひとり”という言葉に入居者や家族は勿論、地域の声も聞いて行くと言う思いが込められている。地域密着型になった事を機に地域住民との交流を、理念の中に具体的に思い起こさせるような言葉にしたいと考えている。	○	地域密着型サービスの役割を地域の方により解り易くご理解いただく為にも、更に意識して職員と話し合い、理念の中に盛り込んでいかれる事に期待していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例の会議や臨時のユニット会議で入居者の情報交換時、理念に照らし合わせ、考えながら話し合い必要に応じて唱和をしており、全職員が理念を理解できている。管理者は日々の介護の現場で理念に立ち戻り理念を伝え助言したり、職員はケアの場面で言葉かけ等、常に理念を意識しているが、何かあった時や見守りが手薄になった時等、理念がおろそかになっていたり忘れがちになっており互いに注意しあっている。	○	ゆっくり気持ちにゆとりを持って接する事で、入居者ひとりひとりの声に耳を傾けられ、その人らしさを大切に生活を送れるように支援できる。今後とも常に理念を意識し理念に沿ったケアが実践されていく事を期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの学校から運動会や文化祭にご招待頂き見学に行ったり、地域のカラオケ大会に入居者が参加し楽しく過ごしている。回覧板で夏祭りのお知らせをし、地域の方がポスターを貼ったり地域からの参加も多く大変な賑わいであった。小・中学校の体験学習を受け入れ、その後は手紙を頂いたり学校を通じて見学に来られたり、尺八、琴、三味線、バンド演奏等のボランティアの方々や職員の子供達による、手品等でホームを訪れて貰う取り組みが日々行われている。	○	ホームの行事のお知らせを、自治会回覧板の利用を提案して頂く等、地域からの積極的なご支援は頂けており、ホームとしても入居者と共に、地域の一員としての役割に参加出来る事等を検討され、地域との交流をより深め、地域で暮らし続ける為の基盤作りに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長は運営者から全面的に委任され、外部評価についても自分達の日々のケアの振り返りになる事を職員に伝え、自己評価票を記入して貰い管理者が1つにまとめた。前回の評価結果を基に管理者と一部職員が改善策を検討し計画書を作成して取り組み、自己評価結果や改善状況等を、運営者へ月1回定期報告をしている。自己評価を日々のケアの振り返りに活用出来ている職員もいるが、評価目的や活用等の理解の程度に差があると管理者は感じている。	○	外部評価の目的や活用方法について、運営者や管理者・職員で話し合い、思いを一つにして取り組みたいと考えており、評価項目の一つ一つをケアの評価の機会として捉え、ケアを深めていく事につながるよう期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議参加者の相談を町内会長にし推薦を頂いた方を交えH.19.6より2回開催され、行事案内等を回覧板を利用するよう提案がありポスターの掲示等協力があり、多くの方々の参加を頂いている。ホームの活動報告や意見に基づいた実施状況の報告、介護等について活発な意見や質問も頂いた。議題についての要望や資料を事前に配布したり、参加者のお名前を書いた案内書を郵送していたが、町内会長より“持っていきますよ”と言って頂き町内会議の時にお手渡ししている。	○	会議には家族、市職員、自治会、他グループホーム、職員の参加は得られているが、入居者の参加には至っていない。ホームをより知って頂く為にも、地域の方にも出席して頂けるように2名の方に持ち回りでの参加をお願いしたいと考えている。入居者の方にも参加して頂きやすい環境を作る等検討される事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が申請書類を持って窓口へ伺った時に、ご挨拶したり声をかけ事業所の活動内容等の情報提供を行っている。管理者が病気の為、急遽交代が必要になり相談し状況をご理解頂き、関係機関との連絡や助言、必要な措置や管理者研修について配慮して頂いている。今後も運営面だけでなくケアの質についても相談を行っていく事を考えている。	○	市の窓口へ伺った際“みどり新聞”を担当者にお渡しする等、ホームの考え方や実状を知って頂き、困った時に市担当者や課題の解決に向けて、協働していけるような関係を作りたいと考えており、市との連携強化に期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の定期報告として“みどり新聞”で、行事や暮らしぶり、職員の異動について報告すると共に、来訪時に入居者の状況、健康管理についてや個別の‘こずかい帳’領収書等の報告を、口頭でしている。遠方の方には請求担当者から行事の時の写真や手紙を差し上げたり、地域で一人暮らしをされている入居者の家族の様子も定期的にお知らせしたり、健康状態等の急を要する事は電話で報告している。	○	3事業所の“みどり新聞”を発行しているが、行事の時の入居者の笑顔や生活ぶり等、そのままお伝えできるようにホーム独自で作っていきたいと考えている。職員と話し合いながら発行回数や紙面作り等、検討中であり今後の取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見等を率直に言って頂けるよう、ご意見箱を設置したり、入居時に市町村等の相談窓口もお伝えしている。外部評価のアンケートに意見や苦情等、積極的に記入して頂くように家族にお願いしたり、面会時にお聞きするようにすると共に言い易い雰囲気作りに努めている。ご意見を頂いた時は施設全体の会議の中で検討し、関連施設のご意見等も職員で共有し自分自身の事としてケアに反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は定期的に行われており、職員個々の適性やスキルアップも考えた上での異動もしている。個人面談を行って悩みを聞いたり食事会や職員親睦の場を設けている。職員交代時は入居者が不穏にならないように、その時の心情に合わせて説明し、情報提供や指導を十分に行っている。	○	職員が継続的に関わる事で馴染みの関係が保て、入居者の安心した生活の継続につながる。法人内の他事業所との交換研修という形で、新たな気付きやスキルアップにつなげたいと考えており、運営者と話し合いたいと考えている。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の専門職員に講師依頼し感染症等の内部勉強会や認知症実践者研修等の外部研修に管理者や計画作成担当者が出席し、伝達研修を行ったり、資料を配布したりしている。管理者や日勤リーダーが助言したり、必要に応じて口腔衛生、理学療法士等に現場に来て貰って指導を受けている。外部研修は交通費等も負担し積極的に参加できるようにし、経験年数により介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得について個別に声かけを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市グループホーム協議会や介護支援専門員連絡協議会に施設長、管理者が参加したり、休日を利用して職員と共に新しいホームのオープン見学に行っている。研修会で知り合ったホームに見学に行ったり、日常的な情報交換や相談をしている。学習会や交流を持ったり、相互訪問の回数を増やす事でケアの視点や振り返り、新たな気付きにつなげサービスの質の向上を目指していきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅にお伺いしたり入院中の時は病院にお見舞いに行つて、顔馴染みの関係を作ったり、サービス開始前に見学に来て頂いたりしながら、情報提供書を基に話し合い、大まかな暫定の計画書を作成し、ケアしながら計画修正していき安心して生活できるよう支援している。入院先のヘルパーさんに来て頂いたりしながら、徐々に馴染んでいけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付けや切り方、米とぎ等を、その場で具体的に教えて頂いたり、縫い物やタオルたたみ等、助けて頂いたり教えて頂いている。業務が中心になりバタバタしている時に「ちょっと座らんね、急がんで」と、自分の余裕のなさに気付かされたり、夜勤の時に「きつかね、ご苦労さま、お疲れさん」と声をかけられ“ホッ”とすると共に、労わって頂いている事を感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や習慣・趣味等を把握し、行動や表情から思いを汲み取るように関わり、第二の家族という思いで接している。傾眠気味で生活にメリハリがなかった入居者の主治医と相談し、向精神薬を中止し状態が改善され排泄も布の下着に変え思いを叶える事につながっている。理念の中の『その人らしさを大切に』が活かせるよう職員間で話し合い、表情や声かけしながら家族だったら、自分だったらと置き換え思いに沿ったケアをしていきたいと考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が自分らしく暮らせるように、本人や家族、かかりつけ医や法人内の専門職等の意見を聞きながら、職員で意見を出し合い介護計画を作成している。個別・具体的な課題や目標は記載されているが、表現が入居者や家族にとって解り難い専門用語になっていたり、現在行われているケアに関しても、個別介護手順書がある方とそうでない方がいる。	○	全入居者の計画の中に“地域で暮らす”という視点が盛り込まれ、入居者が言われた言葉や馴染まれている言葉、優しい単語等に置き直し、日頃支援されている事を手順書に追加する等、より個別的な『入居者自身の計画』になるよう、今後の更なる取り組みに期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常日頃から入居者のご希望や家族のご意見をお聞きし、入居者の変化や家族のご要望等の変化が生じた場合、職員からの気づき等の意見がある時には、臨機応変にその都度見直しをしている。新たな変化や要望がない場合にも月1回程度は全入居者について検討は行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望で独居で生活している妻を伴い、馴染みの「蕎麦屋」に行ったり、その妻の暮らしも守る為に、台風の時等は部屋に宿泊を勧めたり、安否確認も含め料金を受け取りにご自宅訪問し、遠方の家族に様子を報告。状態変化時は主治医に連絡し救急病院へ搬送し、一過性の脳梗塞と診断され入院治療を勧められたが、本人・家族の希望で主治医や看護師との連携、法人内施設の医師や看護師の相談・往診体制の確保により、在宅で過ごして頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望の医療機関をお聞きし、納得と同意の上で協力医療機関にかかっていたが、希望があれば紹介状等も準備し他の医療機関を受診頂いている。眼科、皮膚科等の専門科目は以前からのかかりつけで診て貰っている。通院介助は家族にお願いしているが、職員が行った場合は変化がない場合も速やかに報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に『看取りに関する指針』について説明し、ほぼ全入居者の方の意向を確認している。事業所で対応できる範囲についても協力医療機関や家族、職員と話し合い、状態変化があった時は繰り返し話し合い意向の確認をしている。ホームで看取りをした経験もあり、家族の方からは感謝の手紙を頂きそれを大切にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	第二の家族という思いでケアをしているが、排泄介助時に声が大きくなることもあり互いに注意し合ったり、管理者が個別に指導をする事で少しづつ減りつつあり、気づいた時は皆で集まり話し合いをし、羞恥心に配慮してさりげなく行えるよう常に意識している。個人情報保護法についても全職員が理解しプライバシーの保護に努めている。	○	入居者に対する言葉の内容や声の高さ等が、入居者の誇りや羞恥心を傷つけたり、プライバシーを損ねる事になっていないか、日頃から気を付け事業所全体で取り組んで行きたいと考えており、プライバシーの確保が徹底される事に期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムが取れるよう声かけをし、本人の思いに沿ったケアを実践したいという思いに“しなければいけない”という思いが優先する事で、時間に追われた状態になっている。その日の体調や気分を尊重し無理強いないようにしているが、忙しい時に職員の都合を優先してしまう事もあり、その都度“生活のペースを大切にしていこう、ホームの良い所を”と繰り返し伝えていく事で気持ちが変わってきつつある状況である。	○	忙しいという思いから業務優先の状況になっているが“たまにはゆっくりする時もあるのでは”と考えたり入居者の表情等を見逃さずに傍に付き添うケアに努めており、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟な対応を継続される事に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや味見をしたり、テーブル拭きやランチョンマットの準備をしたり、食べたい物の希望がある時には臨機応変に献立に取り入れている。職員も一緒に食卓につき楽しく食事し、時には外食をしたり、誕生日やお正月、クリスマス等には旬の食材を採り入れるなどし、山菜取りに行き路やつわ等を食事に採り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	回数や時間をある程度決めてはいるが、希望時はシャワー等で対応したり、体調に無理のない範囲で入っている時間や湯温や順番等個別に対応している。浴槽に入るのが難しい時はディサービスの機械浴で対応したり、職員が抱えて浴槽に入って頂いたり、入浴を嫌がる方も戸外の話しながらゆっくり歩き、偶然のように浴室までお誘いしている。菖蒲湯やゆず湯等季節を楽しんで貰ったり、暖かくなったら温泉に行く事も予定している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴・趣味等を把握し力を発揮できるように支援し、新聞を読んだり、お洒落を楽しんだり、唱歌を歌ったり日記を書いたり、小物を作って入居者や家族にも喜んで頂いている。居間に個人毎のファイルがあり、ぬりえ、国語・算数のドリルが綴じてあり、自分のペースで好きな時に楽しめ、昭和の生活等のぬりえに色を付けながら思い出を語り合う場面も見られる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩をし序でに山菜を採ったり、美容院や買い物、ドライブに行ったり、独居の妻も一緒に馴染みの「蕎麦屋」に出かけたりしている。2階の居室からエレベータで1階に降り1人で外出される方もおられるが、職員はそと後ろからついて行き一緒に散歩したりしている。街頭を飾るイルミネーション見物を予定しており、外食に関しても検討中である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物入口は20:00～7:00迄の防犯上の施錠をしているが、それ以外は自由に玄関から外出でき、エレベータも自由に使えるようになっている。職員が作業する位置等の工夫をしながら、声を掛け合い安全確認をすると共に、入居者が落ち着かれなくなる時間を予め把握し対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回施設全体で定期的に避難訓練が行われ職員が参加しているが、現状ではホーム独自の訓練の取り組みはされていない。H.18年の避難訓練は消防署の方にも来て頂き、テレビ放映や新聞の取材もあった事から、見学者が多数集まったの訓練になった。地域の方に訓練のお知らせ等行っているが参加には至っていない。災害に備えた備品等の準備も特にはされていない。	○	地域の消防団や地域の方との協力体制や、入居者・地域の方も含めた訓練の実施についてや、回覧板を使ってお知らせする事等、推進会議に諮り検討されたり、災害時に備えた備品の必要量や物品についても法人とも話し合い取り組んでいかれる事に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの好みや嗜好に合わせ、御飯をパンにしたり肉や魚等、食材を変えたり調理法や味付けを変え別皿に盛ったり、飲み物の種類を選べるようにしている。食事摂取量の把握・記録をし水分については必要量の摂取が出来ているかの確認は出来ている。月1回の体重測定や1か月分の献立を法人内の管理栄養士にチェックして貰い、助言に従って対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良く東側の窓は午前中カーテンを閉め、光りの量や温度調節を行い快適に過ごせるよう配慮している。居間や廊下には入居者が作られた季節の小物が飾っており、季節が感じられるようになっており、お正月、お節句、クリスマス等、季節毎に変えたり多くならないように気を付けている。安全確保の為窓が全開できず、換気扇も小さいので常に換気を心掛け、空気が淀まないよう努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品を持って来て頂くよう家族の方にお伝えし、使い慣れた家具や小物入れ、仏壇が置いてあったり、家族の写真が見やすい位置に貼ってあったり、手芸の好きな方は沢山の作品が飾られている。ポータブルトイレを利用されている方は、排泄介助後すぐに処理し部屋に臭いがこもらないようにし、居心地よく過ごせるように工夫をしている。		